

高津俊久(こうづとしひさ)

小寺 稔

(財大阪市都市整備協会理事長)

明治40年(1907)大阪市南区に生まれる。昭和6年京都帝国大学土木工学科を卒業後、大阪市に奉職、以来計画畠を歩き、第2次・第3次大阪都市計画事業の促進に尽力する。戦後、大阪市は戦災によって市域の27%、1600万坪に及ぶ広大な地域を焼失したが、高津さんは昭和20年復興局計画部計画課長となり、その後、建築局整地部次長、整地部長、計画部長、計画局長を歴任し、その間、この戦災復興事業において、全国一の規模(1069万坪)と、港・大正区における全面盛土を含む画期的な港湾地帯区画整理事業に、常に中心的な存在として精力的に取り組み、都市計画の専門家としての真価を遺憾なく発揮した。

又、大阪駅前の再開発のため、区画整理法に立体換地条項を導入することに努力し、更に市街地改造法の制定に尽瘁し、全国で第1号の市街地改造に着手した。今日、第1棟から第4棟迄(延床13万坪)の市街地改造ビルが建ち並び、世界の再開発の十指の内に入ると云われる成果を挙げ得たのも、高津さんの功績として見逃せない所である。更に、昭和30年代には、地盤沈下防止対策として地下水の全面的な汲上げ規制を、日本で初めての



施策として具体的に取り組み、昭和34年には「大阪市地盤沈下防止条例」を制定、これがもとで、昭和37年「建築物用地下水の採取の規制に関する法律」ができた。正に氏は全国的な地盤沈下対策の先駆者である。

昭和37年阪神高速道路公団の創立とともに、その初代の計画担当理事となり8年間、続いて昭和45年から亡くなる迄の11年間は阪神高速道路協会理事長として、大阪市在職31年間を併せて実に50年間、終始一貫都市計画事業に従事し、その卓越した見識と豊富な経験を生かし、理論と事業において大阪は勿論、近畿の都市づくりに多大の貢献をなし、その功により昭和52年、勲3等瑞宝章を受章する。

氏は非常に豪放で、又、合理的なものを見方をする反面、相手の身になって物を考える事に長じた方でもあった。高津さんの下で仕事をしていると、何が何でもこの人の為ならという気持にさせられる、そんな気力を与えてくれる人であった。

都市5000年の歴史の中でこの20世紀ほど、あとにも先にも、これだけ激しく急激に大きな街づくりが行われる時は、もはや無いだろうと思うが、それを高津さんはやってこられた。その作られた大阪の街は今後何百年も何千年もその姿をとどめ、高津さんの功績を永遠に残してゆくだろう。